

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願い

昭和大学消化器・一般外科では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

内視鏡治療後食道癌に対する胸腔鏡下食道亜全摘術の有用性
<p>1. 研究の対象および研究対象期間</p> <p>1996年1月1日～2019年8月31日に表在型食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）などの内視鏡治療後に、追加治療として胸腔鏡腹腔鏡併用食道亜全摘術（VATS-E）を施行した症例。</p>
<p>2. 研究目的・方法</p> <p>近年、表在型食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）などの内視鏡治療が、患者さんへの負担の少ない治療として普及するようになりました。しかし、切除した病理検査の結果から、リンパ節転移のリスク、腫瘍遺残の可能性などにより追加治療が必要と考えられる患者さんもいます。当科では、そのような患者さんに対して、低侵襲性手術である胸腔鏡腹腔鏡併用食道亜全摘術（VATS-E）を施行してきました。本研究では、内視鏡治療後食道癌に対する胸腔鏡下食道亜全摘術の有用性について検討したいと考えています。1996年1月1日から2019年8月31日までに内視鏡治療後に昭和大学病院 消化器・一般外科にて食道癌手術を施行した患者さんのデータから、経過記録、血液検査（白血球数、ヘモグロビン値、アルブミン値、CRPなど）、X線検査、CT検査、内視鏡検査、手術関連記録（麻酔記録、手術記録）、生理機能検査、術後外来経過記録などを調査対象とします。</p> <p>研究期間</p> <p>1996年1月1日～ 2020年12月31日</p>
<p>3. 研究に用いる試料・情報の種類</p> <p>患者背景（年齢、性別、身長、体重）、既往歴、生活歴、診断名、入院日、手術日、退院日、臨床経過、血液査</p> <p>所見、生理学的機能検査所見、内視鏡検査所見、CT画像、手術所見および成績、病理所見、生存期間</p> <p>患者背景（年齢、性別、身長、体重）、診断名、入院日、手術日、退院日、臨床経過、CT画像、手術成績、および生存期間</p>
<p>4. お問い合わせ先</p> <p>医学部外科学講座 消化器・一般外科学部門</p> <p>住所：142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8</p>

電話番号 : 03-3784-8541

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先 :

所属 : 医学部外科学講座 消化器・一般外科学部門 氏名 : 山下剛史

住所 : 142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号 : 03-3784-8541

研究責任者 :

医学部外科学講座消化器・一般外科部門 講師 山下 剛史